

# 千葉大学 柏の葉 カレッジリンクプログラム

【専門コースAメンバーの理解】

# カレッジリンク先生方から学んだこと

- 自分の言葉で語ること
- 農的な都市生活
- 身心一如
- 身土不二
- 医食同源
- 地産地消
- モード2の科学 持続性科学

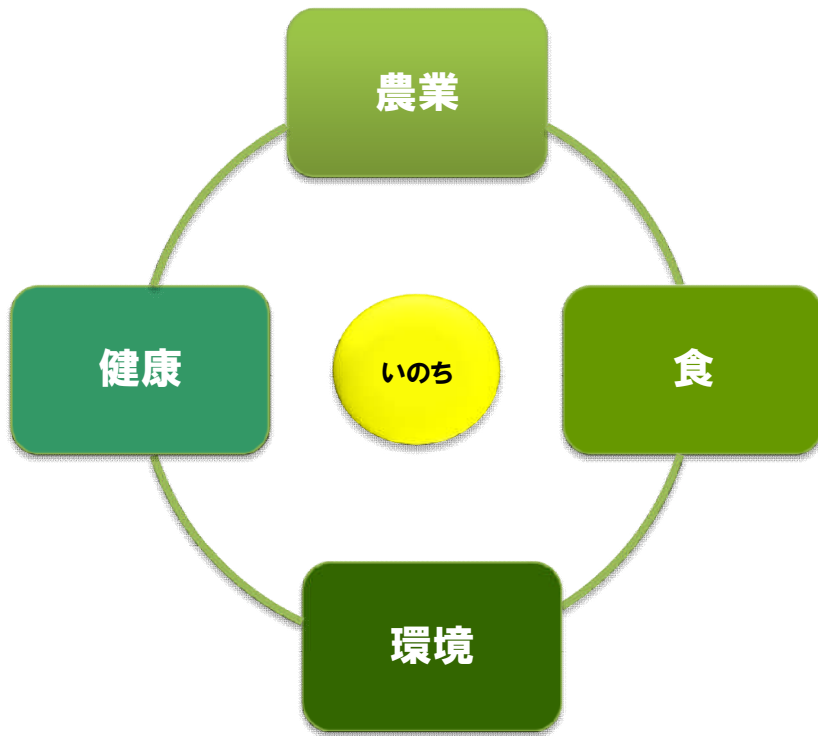
# サステイナブルデザイン学とは？

- ○○のデザインを考えるにあたり常にサステイナブルであるかが評価軸となる
- 街づくり＝人づくり・暮らし・生活・地域をデザインする
- 人づくりにあたっては、自然への感性を持って科学的に思考する⇒市民科学の実践
- グローバルな思考
- 自分の言葉で考え、そして行動する人
- 生活者の視点から新たなライフスタイルを考える
- なぜ？どうして？

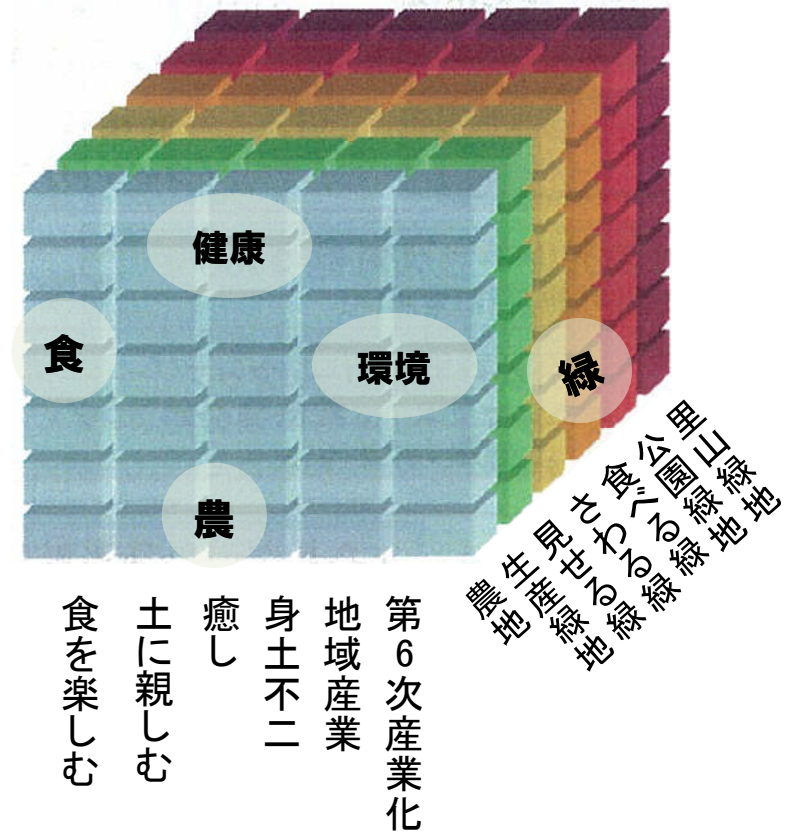
# 食・農・緑から健康環境を考える

- 緑 里山／農地／都市緑（公園・街路樹・生垣）
- 医療／健康／楽しみ食／おいしい食
- 療法／楽しみ／自然に親しむ／地域産業
- 人と自然とのコミュニティ
- 土・水・風 風土 気候
- なぜ？どうして？
- 全体最適な知識

〈食と農〉〈緑〉〈景観〉〈環境〉〈健康〉  
 ～いのち(豊かな暮らし)をとりまく複雑系～

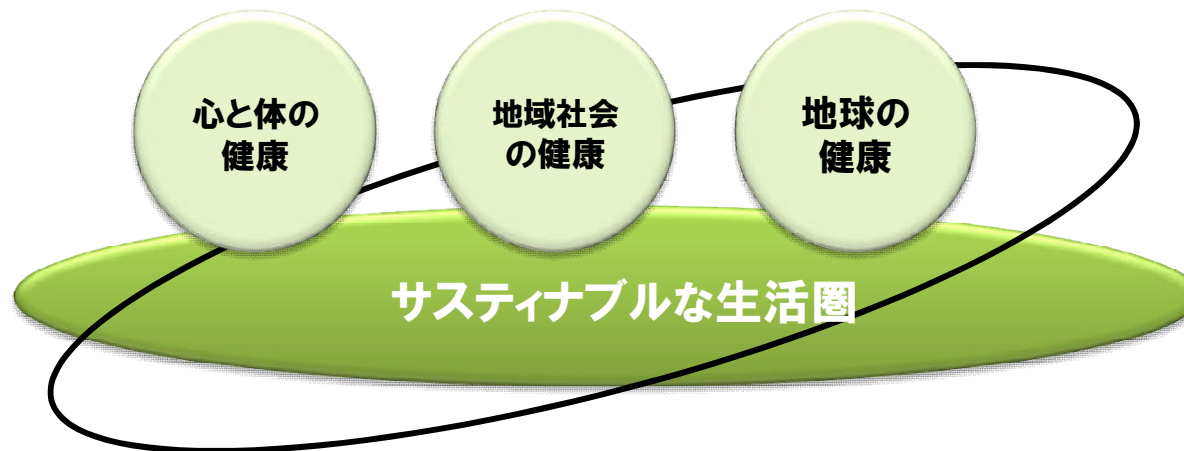


食文化  
 フードマイレージ  
 流通  
 安全性  
 生産  
 自給率



# グローナカルな視点での市民科学

- 自分自身で課題を考え
- 課題解決策についてチームで検討
- 自分／地域／地球 規模で考える

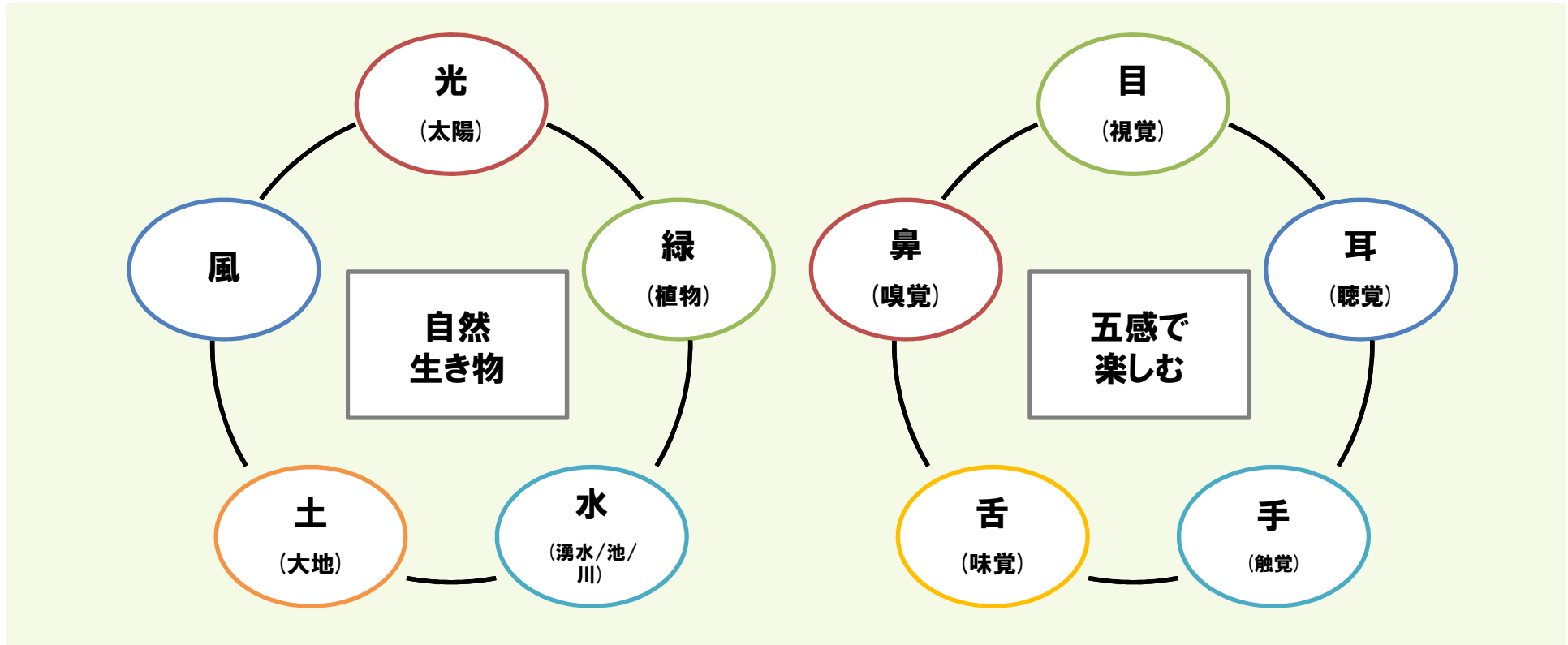
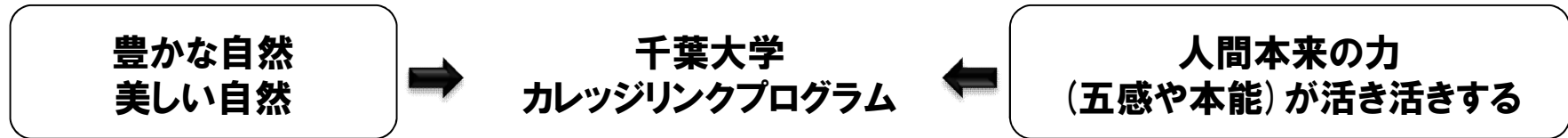


- 街づくりの目標：自立・自助・共助の（江戸型）柏の葉文化生活圏モデル  
アジアに開かれた少子高齢化対応（ユニバーサル・安全・安心）  
“グローナカル”

# フィールドセンターから情報発信

- 世間の常識と専門知との違い
- 構造化された食・農・緑のナレッジ
- モード2の考え方
- カレッジリンクを通じて積極的に市民と交流
- 何を目指しているのか？何をやろうとしているか？
- 全体知と専門知を併せ持つ教授陣

# いのちから学ぶ



⇒ アスファルト・コンクリートなど人工物との対比



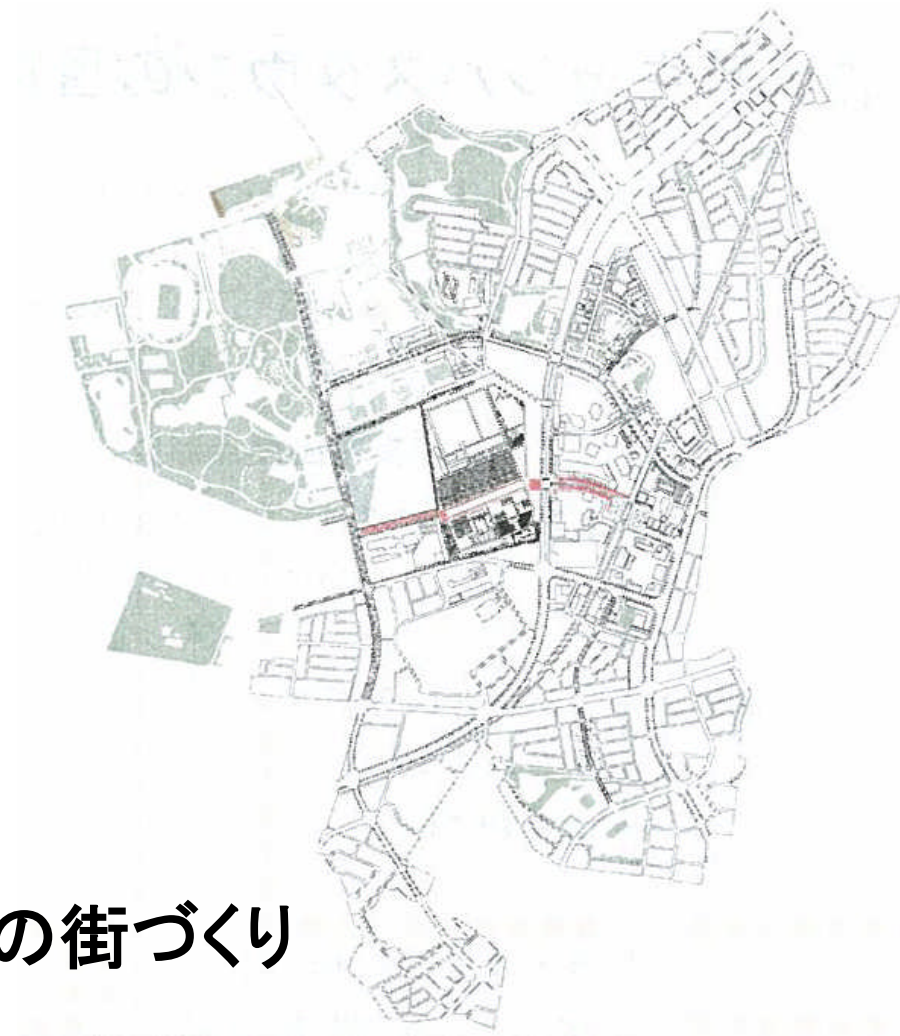
# 街づくりのテーマとカレッジリンクプログラム

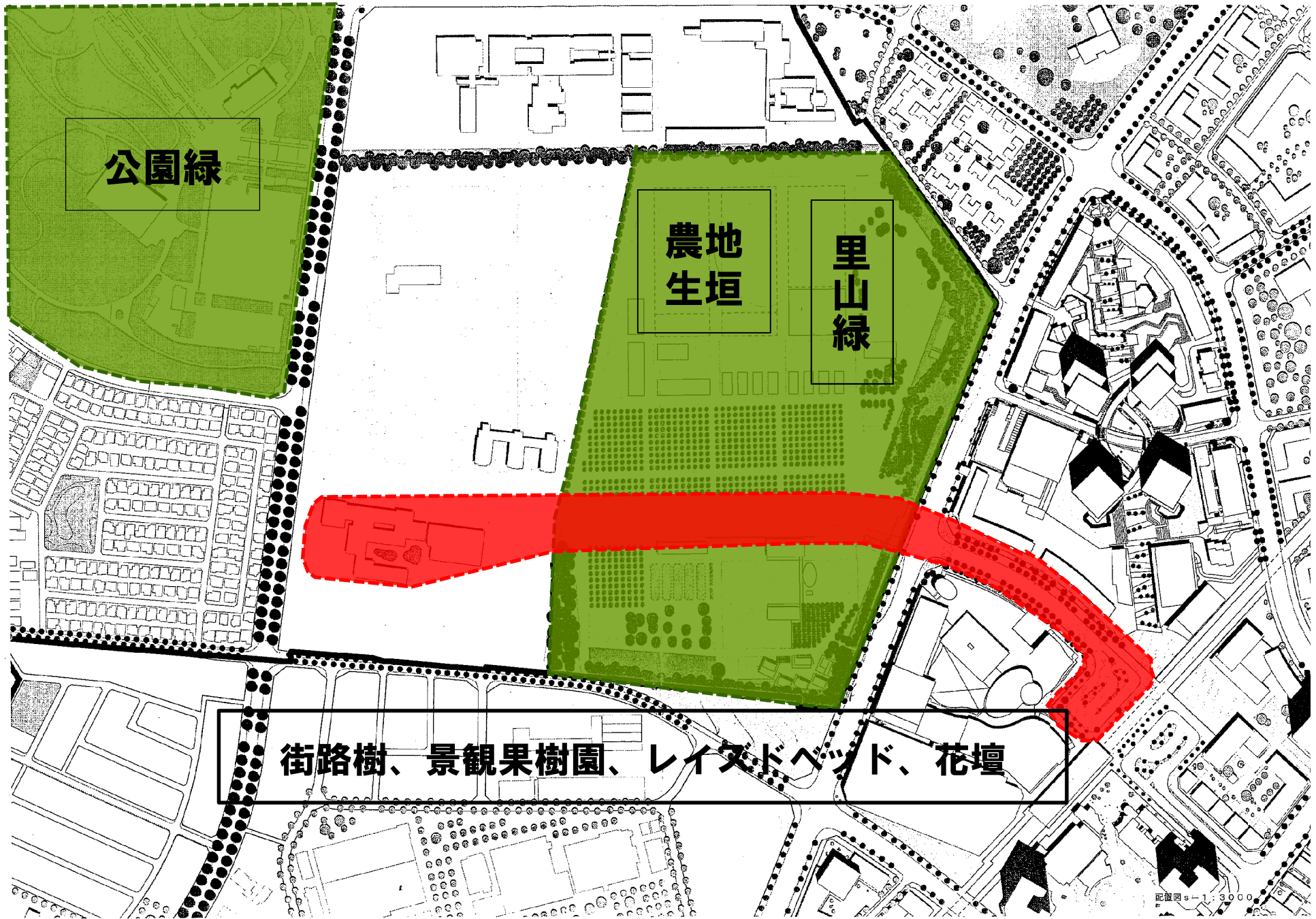
## 柏の葉キャンパスの街づくり

- ・環境・健康・交流・創造の街
- ・知が集積融合し  
人と地球の健康を育む街
- ・活気ある高齢持続社会モデル



千葉大学環境健康フィールド  
科学センターからの街づくり





公園緑

農地  
生垣

里山  
緑

街路樹、景観果樹園、レイアウトベルト、花壇

正図 4-1-300

## 1. (桜)癒しのプロムナード

緑に覆われ、小川が流れ、小鳥がさえずる。このプロムナードに足を踏み入れると、ふる里の昔を思い出すようでホッとする。

ゆっくりと散策し、ベンチに腰を下し、流れる水をただボーっと眺めてしばしの時を過ごす。リラクゼーション、リフレッシュ

空腹、咽喉の渴きを覚えた時は、付設のレストランで、薬膳系の食事を味わうなど、体の内外からストレスを解消する空間。

## 2. コミュニケーションのプロムナード(参加型)

植物との関りを用いて自己解体と自己再生を行う。普段なかなか植物に直接触れることの少ない障害者や高齢者に、レイズドベッドを使うことにより植物との関りを持てる⇒植物に触れることによる満足感同じ作業をすることによりまわりとコミュニケーションがとれる。

## 3. 学びのプロムナード

散策することにより、フィールドセンターの取り組みに触れることができる。また、自然を見て、触れて、食べることができる。

体験ツアー・工房・カフェ・レイズドベッド

## 4. 社会体験のプロムナード

学生と市民が一体となって、清掃、イベント、バーベキューなど集まり活動する場  
子供たちの社会見学の場

## 5. 交流のプロムナード

地域外の市民が加わり、一緒に清掃活動等をする。(ex. green bird)

## 6. 実演体験

ジャムや味噌などを自分たちで作る。

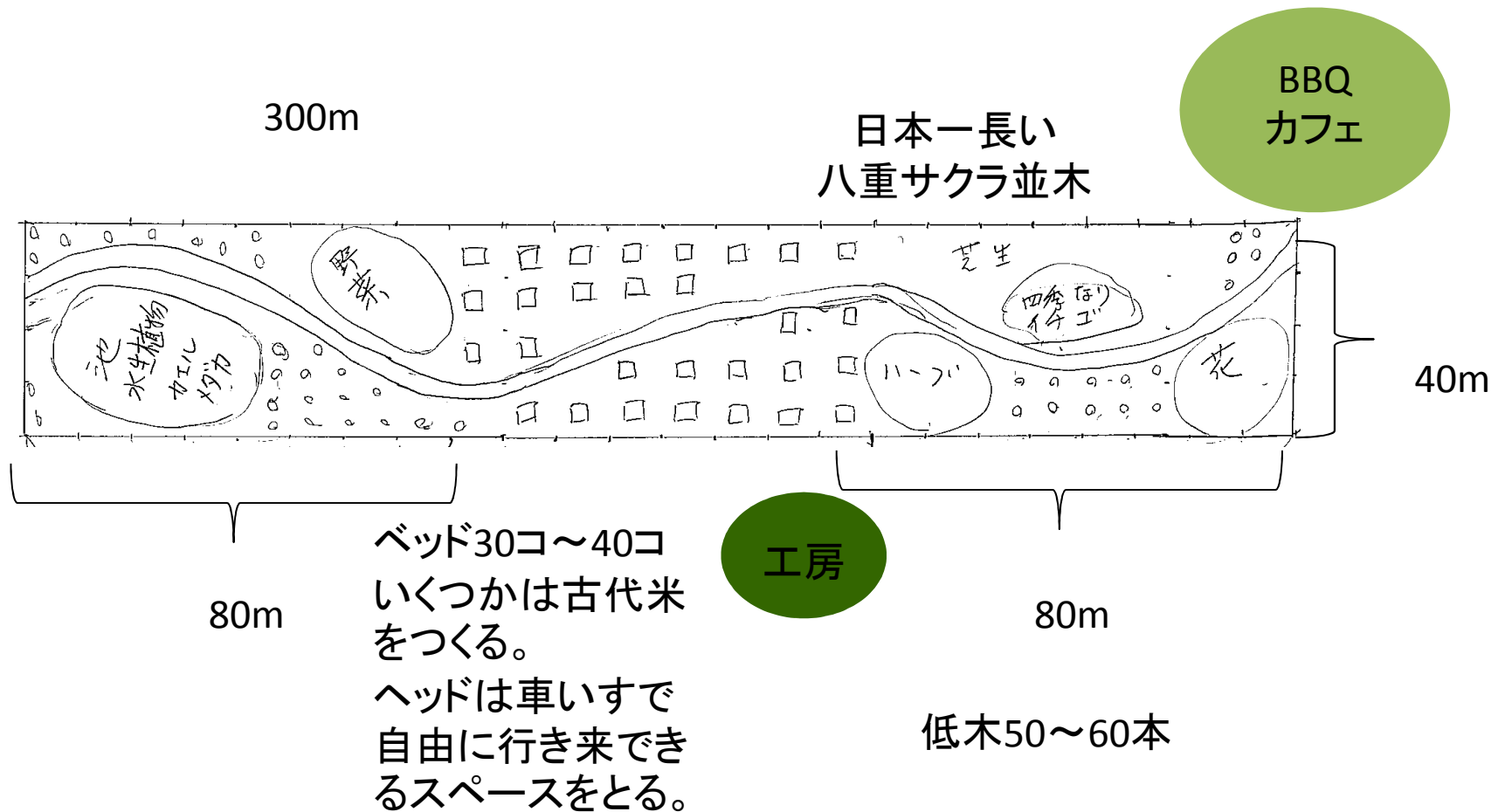
## 7. レイズドベッド工房

山武杉をつかったレイズドベッドを制作する。

## 8. もったいない学校

学びを通じて交流ができる。街の中の生ごみを集めてみんなで有効利用する。例えばコンポストやバイオマス発電に利用する。→循環型社会のモデルとなる。

# イメージ



# 療法フィールド構想案

## Group 2

(KATO,KAWAI,TOKUNAGA,TOMIZAWA,SAKATA)



ほっと！するキャンパス

# ①現状

・木を間引く



# 《遊歩道》

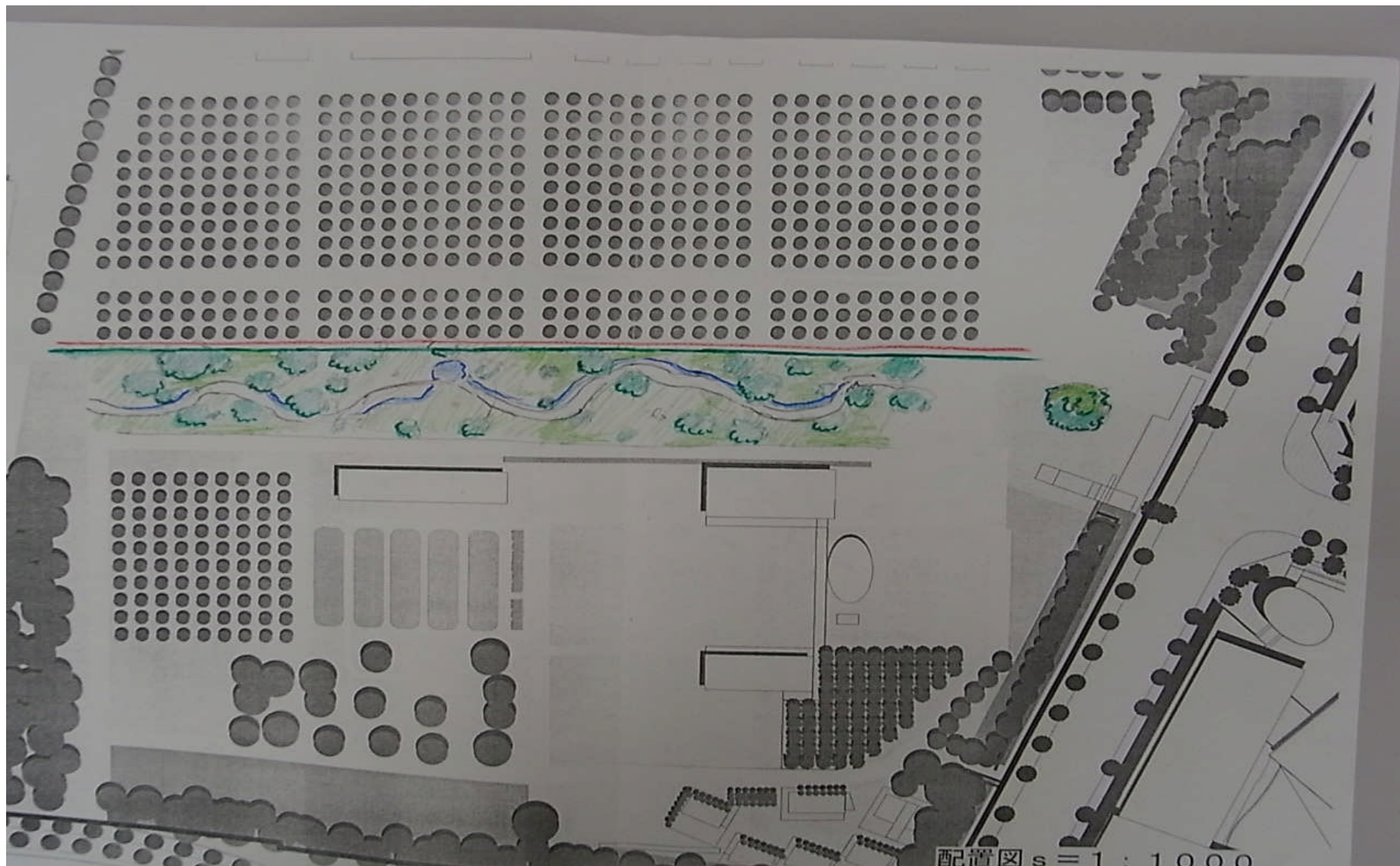




# 《広場》



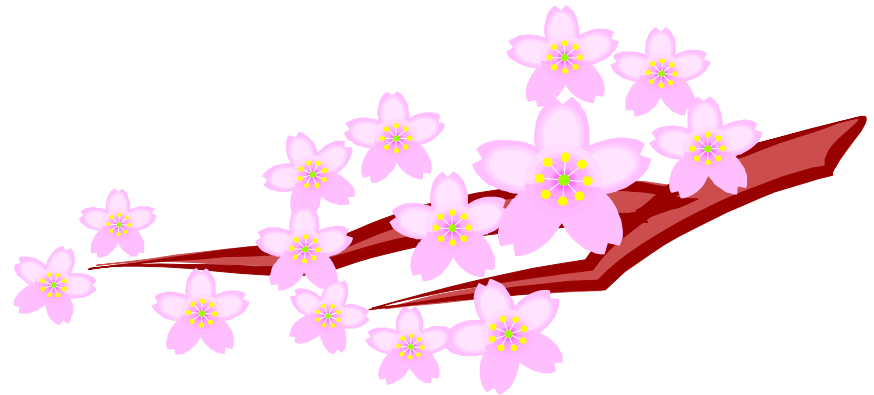
# 《全体像》



# ③管理・協力体制

千葉大学(リーダーシップ)  
柏の葉高校  
市民  
UDCK

- 木のオーナー制
- 間引きした木の有効利用(炭、ウッドチップ)
- 害虫管理
- 研究フィールドのセキュリティー
- イベントの実施
- 常設カフェの運営(ピザ釜の活用)
- 地下水を利用したせせらぎ



# 療養フィールド構想案

～グループ3

フーさん;まじまじ;ひろちゃん;  
りんちゃん、しぎさん～

平成21年7月18日(土)

テーマ 千葉大学

環境健康フィールド科学センターに  
広がる「療養フィールド」を  
どのようなスペースとするか

# 構想をまとめる前提として 理解し、留意しておくべきこと

1. 「柏の葉国際キャンパスタウン構想」の中における当センターの位置付け

2. 「環境健康フィールド科学センター」の役割（古在教授の論文より）

3. 柏の葉の周辺環境の理解  
（パイロットコースVol.2）

# 「柏の葉国際キャンパスタウン構想」 の中で、フィールド構想に関連する事項

## 5. キャンパスリンクによる柏の葉スタイルの創出

### (3) 農や食の文化を育む空間と生活を充実させる

○「アグリビレッジ」など農を通じた生活空間を整備

○農や食をテーマとする市民の学びの場

## 7. 質の高い都市空間のデザイン

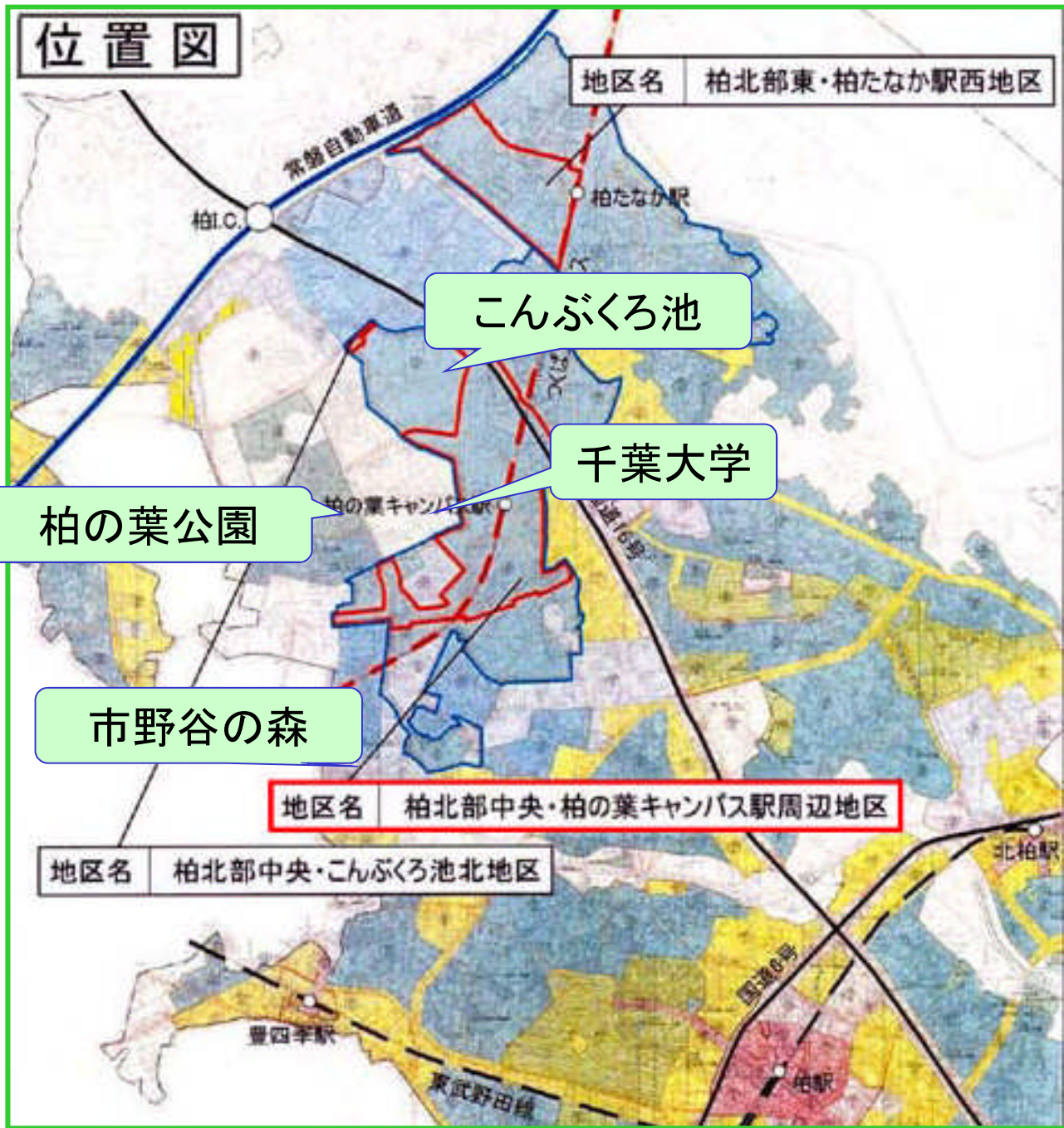
### (1) キャンパスのように緑溢れる自由な都市空間

### (2) 大学が街へ広がる学園の道

### (3) 緑の中に多様な活動が見える緑園の道

○生態系を回復する森を形成する

# 位置図



# 千葉大学が提案する 「環境健康都市」のプロジェクト

1. **Chemi-less town** 園芸 医 住  
千葉大学敷地内に化学物質を可能な限り低減した戸建、集合住宅など「モデルタウン」を建設する
2. **Glass Gate** 園芸 医 食  
千葉大学療養フィールドは、大学とまちの接点となり大学の理念を示す地点となると共に、地域活動に寄与するグラスゲートとなる
3. **Campus↔Town link houses** 園芸 医 食 住  
大学の実験農場がひろがる当地域で、農業・植物栽培・東洋医学といった「健康」「環境」に重点を置き生活の中で実際に体験しながら学習できる場とする



# 千葉大学「環境健康都市」プロジェクト

## 「Glass Gate」の主なプログラム

- ①園芸学部の研究・実習をベースとした「図書室」
- ②漢方などの資料をベースとした「薬膳レストラン」
- ③園芸学部の研究成果を展示公開する  
「ギャラリースペース」
- ④園芸実習で栽培された果物・野菜を販売する  
「ショップスペース」
- ⑤大学の公開講座を開催できる「ホール」
- ⑥キャンパス(タウン)・リンクシニア住宅の  
プログラムとの兼合いで使用できる「講義スペース」

# 「環境健康フィールド科学センター」 の理念・目標・研究課題例

「健康」「環境」「共生」「生きがい創出」などを  
ポジティブに実現するキーワード

○東洋医学(心身一如、医食同源)

○園芸(健康植物、環境植物、庭屋一如、  
園芸福祉、園芸療法)、

○ロハス(LOHAS)

等を導入し、環境健康に関する新たな総合科学・  
産業・行政のあり方の実践的研究を志向している

「環境健康フィールド科学センターの理念と実践」  
千葉大学前学長 古在 豊樹 先生の論文より



# パイロットコースのおさらい

## 第2回1月24日 小原先生の講座

「見る緑、さわる緑、食べる緑、つくる緑」  
～私たちが考える療養フィールド～

療養フィールドとは  
自然・農とのふれあいや  
コミュニティ形成を  
重んじた  
体験型実証実験場



# ～私たちが考える療養フィールド～

自然・農とのふれあいや  
コミュニティ形成を重んじた  
体験型実証実験場

探求の森

景観果樹園

コミュニティ  
遊具

畑

八重桜並木

花壇

# 私たち:グループ3が考えたこと

## 1. フィールドのコンセプト

○「市民が自然と交流できる空間」

心身ともに豊かな暮らしには、持続的な自然環境の維持が大切、という認識



## 私たち:グループ3が考えたこと

### 2. フィールドの特徴

(1)「環境健康フィールド科学センター  
ならではの「共生」「生き甲斐創出」などが  
実現できるフィールド >>> **興味**

(2)市民みんな(=健常者、障害を持った方、  
高齢者、他の地域の方など全て)が  
集まることができるフィールド >> **つながり**

(3)関係者(大学、高校、C-link参加者など)  
が、主体的に運営に参画することが  
できるフィールド >>> **愛着**

## フィールドの基本構想

### 「特徴を実現する3つのゾーン」

「興味」  
フィールド

「愛着」  
フィールド

「つながり」  
フィールド

## フィールドの基本構想 具体的イメージ

「広場」(スロースペース)  
フィールドの中心に直径  
20mの空間をつくり、その  
中心に常緑高木を植える。  
芝生・クローバーなどで  
グラウンドカバーする  
多目的に使用  
(歌い、踊り、演奏など)



千葉大学カレッジリンク・プログラム

岐阜県「学びの森」



## 構想案のまとめ



時々刻々変化する空(そら)、  
太陽と木々で織りなす木漏れ日、  
鳥のさえずり、  
四季折々の色彩の変化  
などもデザインの重要な要素とする  
感性、気持ち、体調などで居場所を選択できる  
全体としてバランスのとれた心地よい  
さわやかで、美しい「市民の広場」をつくりたい

## 広場の管理

設計の段階から「自然」を重視し、  
メンテナンス・フリーをめざす  
市民が主体的に「手入れ」できるよう工夫する



## 「療養フィールドの評価」

フィールドの利用状況、  
利用者の感想・意見のヒアリング、  
市民同士の交流の拡大  
データ化して、質の高いフィールドをめざす



ジリンク・プロケ



# 療法フィールド構想案

## Group 2

(KATO,KAWAI,TOKUNAGA,TOMIZAWA,SAKATA)



ほっと！するキャンパス

# ①現状

・木を間引く



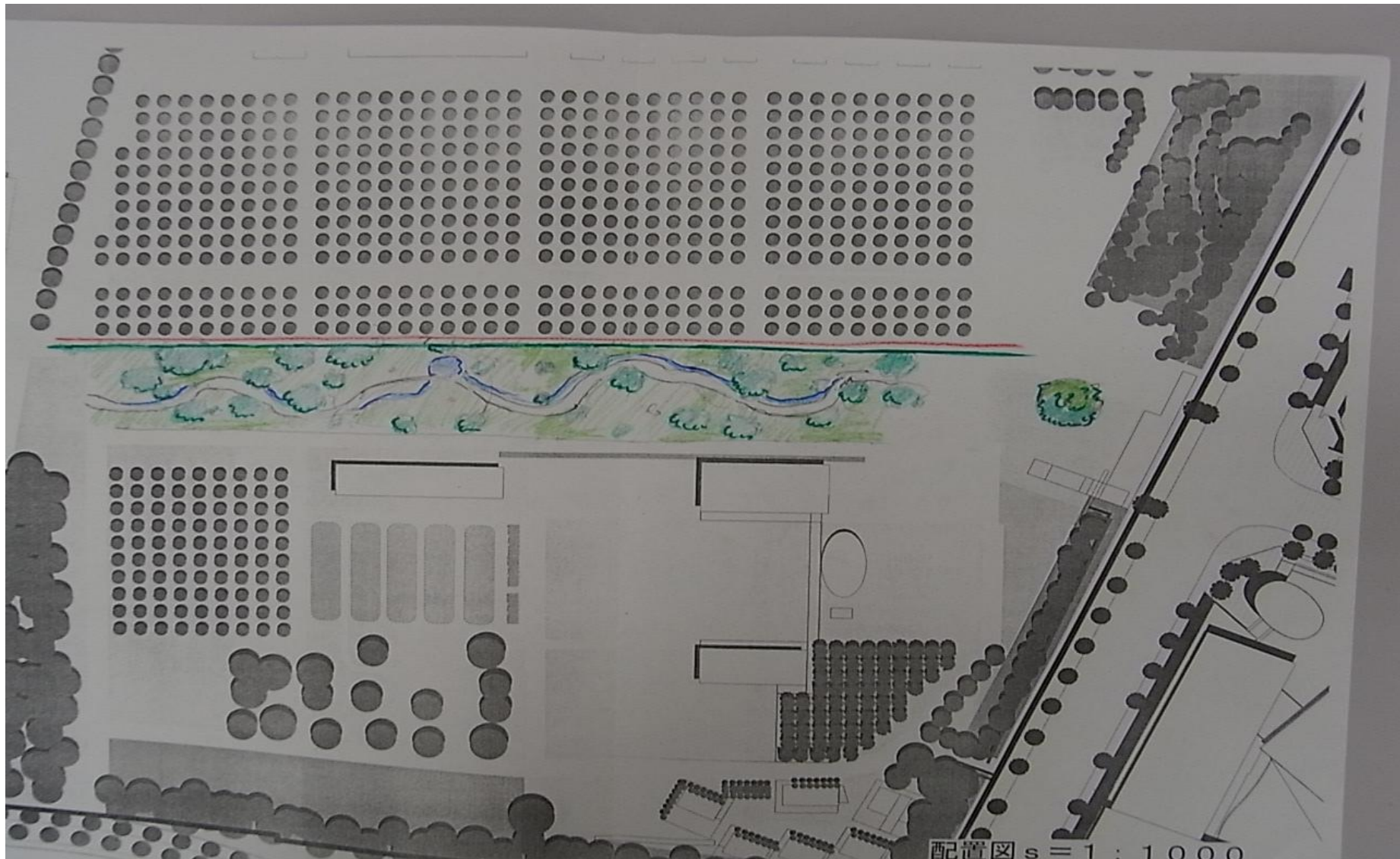
# 《遊歩道》



# 《広場》



# 《全体像》

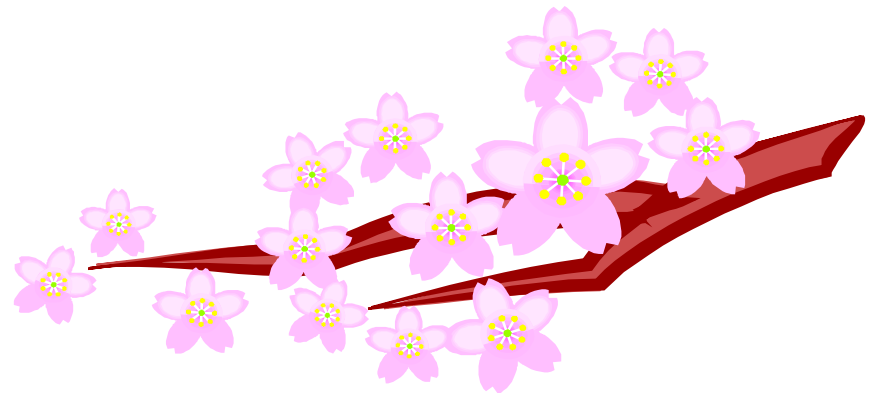




# ③管理・協力体制

千葉大学(リーダーシップ)  
柏の葉高校  
市民  
UDCK

- 木のオーナー制
- 間引きした木の有効利用(炭、ウッドチップ)
- 害虫管理
- 研究フィールドのセキュリティ
- イベントの実施
- 常設カフェの運営(ピザ釜の活用)
- 地下水を利用したせせらぎ



# 療養フィールド構想案

～グループ3

フーさん;まじまじ;ひろちゃん;  
りんちゃん、しぎさん～

平成21年7月18日(土)

テーマ 千葉大学

環境健康フィールド科学センターに  
広がる「療養フィールド」を  
どのようなスペースとするか

# 構想をまとめる前提として 理解し、留意しておくべきこと

1. 「柏の葉国際キャンパスタウン構想」の中における当センターの位置付け
2. 「環境健康フィールド科学センター」の役割（古在教授の論文より）
3. 柏の葉の周辺環境の理解  
（パイロットコースVol.2）

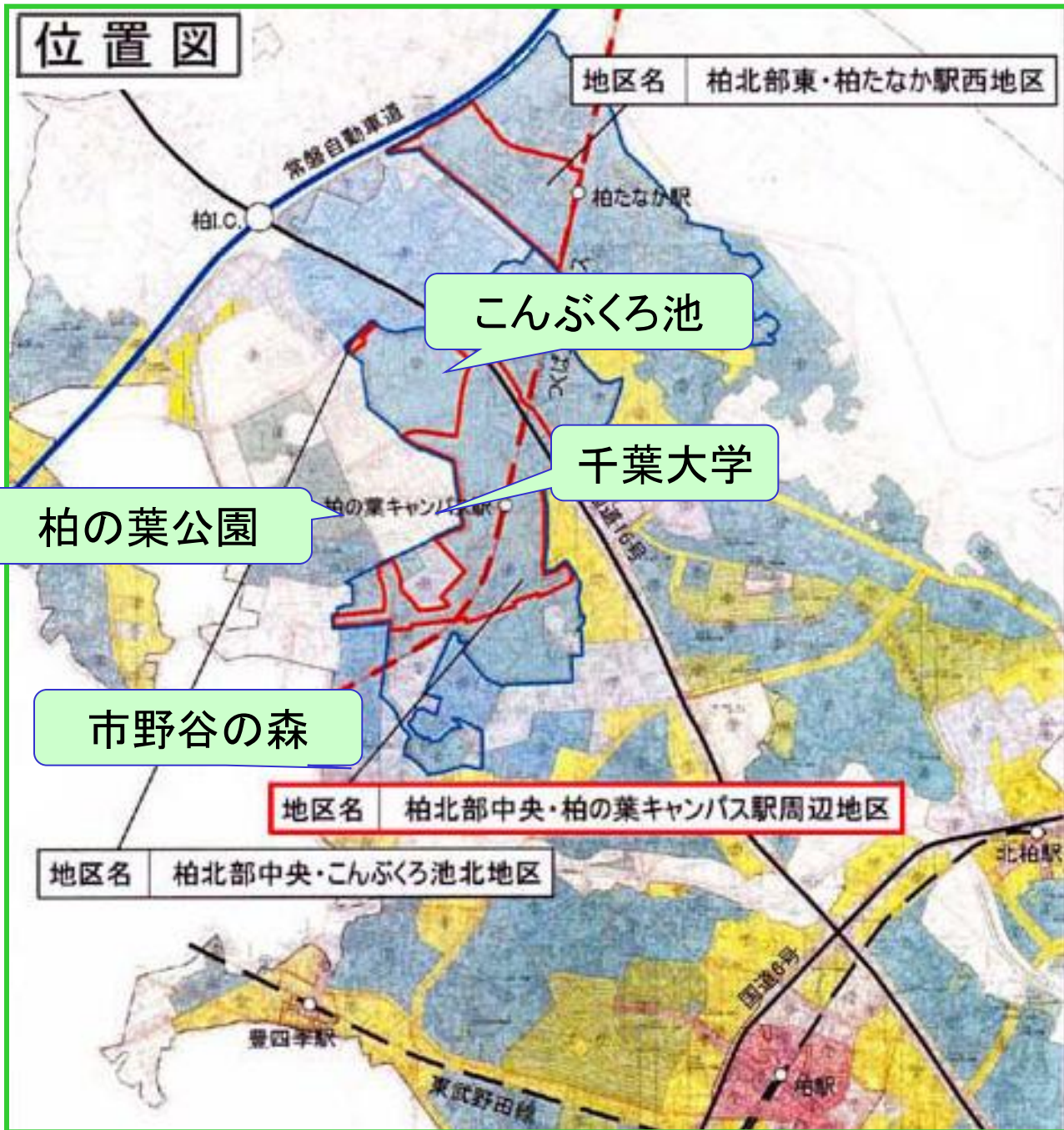
# 「柏の葉国際キャンパスタウン構想」 の中で、フィールド構想に関連する事項

- ## 5. キャンパスリンクによる柏の葉スタイルの創出
- (3) 農や食の文化を育む空間と生活を充実させる
    - 「アグリビレッジ」など農を通じた生活空間を整備
    - 農や食をテーマとする市民の学びの場

## 7. 質の高い都市空間のデザイン

- (1) キャンパスのように緑溢れる自由な都市空間
- (2) 大学が街へ広がる学園の道
- (3) 緑の中に多様な活動が見える緑園の道
  - 生態系を回復する森を形成する

# 位置図



# 千葉大学が提案する 「環境健康都市」のプロジェクト

## 1. Chemi-less town 園芸 医 住

千葉大学敷地内に化学物質を可能な限り低減した戸建、集合住宅など「モデルタウン」を建設する

## 2. Glass Gate 園芸 医 食

千葉大学療養フィールドは、大学とまちの接点となり大学の理念を示す地点となると共に、地域活動に寄与するグラスゲートとなる

## 3. Campus ↔ Town link houses 園芸 医 食 住

大学の実験農場がひろがる当地域で、農業・植物栽培・東洋医学といった「健康」「環境」に重点を置き生活の中で実際に体験しながら学習できる場とする

# 千葉大学「環境健康都市」プロジェクト

## 「Glass Gate」の主なプログラム

- ①園芸学部の研究・実習をベースとした「図書室」
- ②漢方などの資料をベースとした「薬膳レストラン」
- ③園芸学部の研究成果を展示公開する  
「ギャラリースペース」
- ④園芸実習で栽培された果物・野菜を販売する  
「ショップスペース」
- ⑤大学の公開講座を開催できる「ホール」
- ⑥キャンパス(タウン)・リンクシニア住宅の  
プログラムとの兼合いで使用できる「講義スペース」

# 「環境健康フィールド科学センター」 の理念・目標・研究課題例

「健康」「環境」「共生」「生きがい創出」などを  
ポジティブに実現するキーワード

○東洋医学(心身一如、医食同源)

○園芸(健康植物、環境植物、庭屋一如、  
園芸福祉、園芸療法)、

○ロハス(LOHAS)

等を導入し、環境健康に関する新たな総合科学・  
産業・行政のあり方の実践的研究を志向している

「環境健康フィールド科学センターの理念と実践」  
千葉大学前学長 古在 豊樹 先生の論文より





# パイロットコースのおさらい

## 第2回1月24日 小原先生の講座

「見る緑、さわる緑、食べる緑、つくる緑」  
～私たちが考える療養フィールド～

療養フィールドとは  
自然・農とのふれあいや  
コミュニティ形成を  
重んじた  
体験型実証実験場



# ～私たちが考える療養フィールド～

自然・農とのふれあいや  
コミュニティ形成を重んじた  
体験型実証実験場

探求の森

景観果樹園

コミュニティ  
遊具

畑

八重桜並木

花壇

# 私たち：グループ3が考えたこと

## 1. フィールドのコンセプト

○「市民が自然と交流できる空間」

心身ともに豊かな暮らしには、持続的な自然環境の維持が大切、という認識



# 私たち:グループ3が考えたこと

## 2. フィールドの特徴

- (1)「環境健康フィールド科学センター  
ならではの「共生」「生き甲斐創出」などが  
実現できるフィールド >>> **興味**
- (2)市民みんな(=健常者、障害を持った方、  
高齢者、他の地域の方など全て)が  
集まることができるフィールド >> **つながり**
- (3)関係者(大学、高校、C-link参加者など)  
が、主体的に運営に参画することが  
できるフィールド >>> **愛着**

# フィールドの基本構想

## 「特徴を実現する3つのゾーン」

「興味」  
フィールド

「つながり」  
フィールド

「愛着」  
フィールド

## フィールドの基本構想 具体的イメージ

「広場」(スロースペース)  
フィールドの中心に直径  
20mの空間をつくり、その  
中心に常緑高木を植える。  
芝生・クローバーなどで  
グラウンドカバーする  
多目的に使用  
(歌い、踊り、演奏など)



# 構想案のまとめ



時々刻々変化する空(そら)、  
太陽と木々で織りなす木漏れ日、  
鳥のさえずり、  
四季折々の色彩の変化  
などもデザインの重要な要素とする  
感性、気持ち、体調などで居場所を選択できる  
全体としてバランスのとれた心地よい  
さわやかで、美しい「市民の広場」をつくりたい

# 広場の管理

設計の段階から「自然」を重視し、  
メンテナンス・フリーをめざす  
市民が主体的に「手入れ」できるよう工夫する





# 「療養フィールドの評価」

フィールドの利用状況、  
利用者の感想・意見のヒアリング、  
市民同士の交流の拡大  
データ化して、質の高いフィールドをめざす



ジリンク・プロケ

